ぎょかそう

市内勢子辻に建設される「静岡県こどもの国」。この「こどもの国」を富士市にふさわしく、私たちにとってよりよいものにするため、今大勢の市民が知恵を出し合っています。その中心となるのが、「こどもの国を推進する市民懇話会」です。

この「懇話会」は、市内の団体代表と、公募で選ばれた市民代表の分科会メンバーによって構成されています。今回は市民代表を紹介しながら、私たちの「こどもの国」像を考えてみましょう。

テーマ別に三つの分科会で検討しています

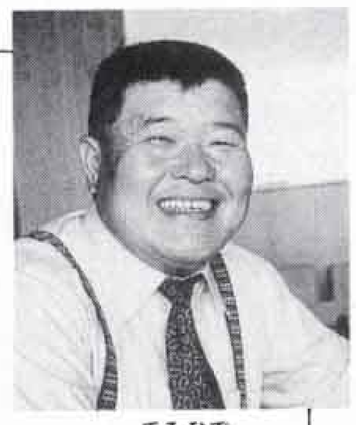
この会では「こどもの国」の機能や施設、運営、管理方法などについて検討しています。詳細な検討は、テーマ別に次の三つの分科会で行われます。

- 第一分科会―楽園・街のゾーン
- 第二分科会―幼児・森・大地のゾーン
- 第三分科会―野・草原・水のゾーン

ここでは、市民代表の分科会メンバー十五人のうち、五人のメンバーに登場していただきました。

八月に市長が県へ提言します

「懇話会」では、検討した結果を八月に市長に提言します。この提言をもとに、市長は県に対して、地元富士市としての提言をしていきます。



井上暉英（てるひで）さん
（獣医）
第3分科会

動物とふれあい思いやりの心を学ぼう

私は、子供たちが動物と生活をともにして、思いやりの心を育てるような草原ゾーンが必要だと考えます。

動物の飼料の世話や糞尿を肥料にするなど、一貫した体験のできる仕組みをつくるのです。動物と二十四時間過ごせば、広い心を養えるし、自然のサイクルも体で理解できると思います。

鈴木政子さん
（主婦）
第2分科会

自然の中で遊び心のパワーアップを

今の子供たちの遊びは、既製のもので遊ばされている感じで、自発的な遊びが少ないと思います。

こどもの国では、人工的なものは少なくし、本来子どもの持っている創造性を信じ、自然の力を借りて、遊び心のパワーアップをしたいですね。

そのための人材の確保が大切なポイントだと思います。

望月康子さん
（主婦）
第1分科会

障害者のことを考えた施設が欲しい

「こどもの国」は健常者だけのものではなく、障害者のことも考えたものでなければなりません。

階段のスロープ化や休息所の設置など、施設を充実すべきだと思います。また宿泊施設については、野外活動での心身の疲れや汚れを落とし、明日に備えるためお風呂の設備は欠かせないと思います。

私たちのアイデアを！

夢をいっぱい聞かせて

「こどもの国」に対するあなたの夢や自由なアイデア、ご意見を絵や作文にして八月十五日までにお寄せください。市長への提言に反映していきます。

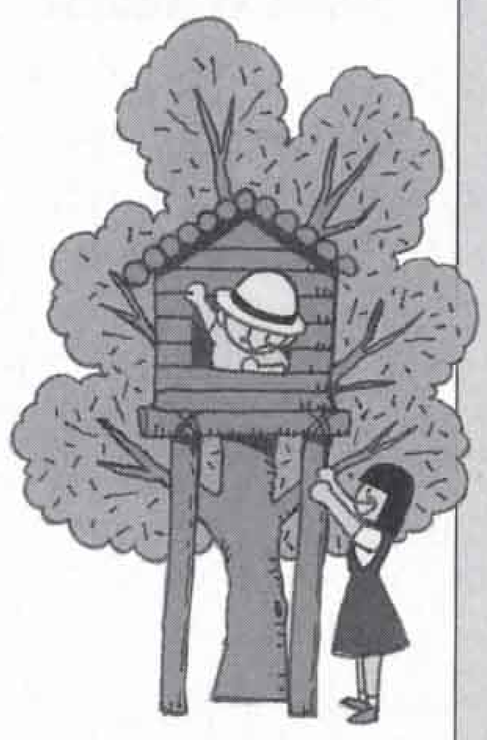
●問い合わせ
政策推進室　内線二八三一

私たちも提言します
（富士市青少年会議）

ことしの富士市青少年会議（八月六日）のテーマは「環境美化と「こどもの国」です。

先輩の高校生や後輩の小学生の意見を聞きながら、私たちも中学生の目から「こどもの国」について提言をします。

青少年会議に出席する南中代表の皆さん



に、子どもたちが直接触れられるゾーンが欲しいですね。

そこには、必ず発見や驚きがあり、自然を理解しようとする意欲につながります。

そのためには、ささやかでいいですから、水辺が欲しいですね。周りには、ブナやコナラの広葉樹を植えれば昆虫と鳥の楽園が出現します。

熱心に話し合う懇話会の皆さん（第1分科会）

諏訪部由美子さん
（主婦）
第2分科会

土のぬくもりや風、雨の痛さを体で知って欲しい

自然の中で親が汚いと感じるものでも、子供は平気なことってよくあると思います。

私は、窓越しに雨を見させるより、外で雨の痛さを体感させることを選びたいと思います。無邪気な土遊びが、やがて田や畑を耕作することに結びつくような、そんな人間本来の暮らしを追求する「こどもの国」であって欲しい。

佐藤雄蔵さん
（ホタル愛好家）
第3分科会

自然を学ぶ水辺のゾーンを

トンボやバッタなどの昆虫